

特願平9-274531

(43) 公開日 平成9年(1997)10月21日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F	3 / 02	3 1 0	G 0 6 F	3 1 0 A
E 0 5 B	49/00		E 0 5 B	B

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平9-118163

(22) 出願日 平成8年(1996)4月3日

(71) 出願人 596066378

岸本 卓也

大阪府枚方市西牧野4丁目1番1-912号

(72) 発明者 岸本 卓也

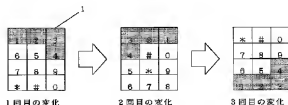
大阪府枚方市西牧野4丁目1番1-912号

(54) 【発明の名称】 番号や記号等の配列が変化する暗証入力方式

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 暗証入力により施錠開錠する方式の防犯装置などの暗証入力の際、第三者に暗証を見盗られることなく簡易に入力可能とする。

【解決手段】 暗証入力装置または、入力表示部を変化させ、指定回数ごとなどに入力位置が変化する暗証入力方式。このことにより、入力ボタンなどの押す位置が変化するので、第三者からは、どの番号が入力されているのか入力位置から特定することが不可能となる。従って、暗証番号を盗用されることがない。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 暗証入力装置において装置側の入力位置が変化する入力方式

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、暗証等の入力方式に関するものである。暗証入力により施錠開錠する方式の防犯装置などに於ける入力番号や記号の配列を、指定回数入力ごとに変更させる。このことにより、入力ボタンなどの押す位置が変化するので、第三者からは、どの番号が入力されているのか入力位置から特定することが不可能となる。従って、暗証番号を盗用されることがない。

【0002】

【従来の技術】 従来、暗証入力により施錠開錠する防犯装置等の入力部分は、番号等が昇順または降順などに固定されている。その他の防犯装置としては、声紋識別、網膜識別、指紋識別、筆跡筆圧識別などがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 これは、次のような欠点があった。

(イ) 暗証識別方式は、入力装置の番号等の配列が固定されていて、一般的に 4 桁の番号で識別していることから、入力位置から指の動き等から暗証番号等が簡単に見盗られてしまう。

(ロ) 声紋識別、網膜識別、指紋識別、筆跡筆圧識別などは、装置自体が複雑で大きくなりコストも過大で使用する場所も限定される。

本発明は、これらの欠点を除くためになされたものである。

る。

【0004】

【課題を解決するための手段】 暗証入力装置、または入力表示部を変化させ、指定回数ごとなどに入力位置を変化させることにより同一暗証を入力しても、同一の指の動きとならないようにする。

【0005】

【作 用】 入力位置が変化するため、第三者が入力位置を盗み見ても、暗証等が盗まれることがない。さらに本発明の方式が利用されていることが第三者が認知していた場合、その第三者の盗用意思を疎外させる効果があり未然に被害を防止することができる。

【0006】

【発明の効果】 本発明を利用することにより、入力位置が変化するため、第三者が入力位置を盗み見ても、暗証等が盗まれることがない。さらに本発明の方式が利用されていることを第三者が認知していた場合、その第三者の盗用意思を疎外させる効果があり未然に被害を防止することができる。そして、本発明は、既存技術で安価に製品化が可能であり、小型化や現行製品に追加機能として簡単に付加することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 図 1 のように指定回数入力ごと等に配列を変化させた場合、入力位置が変化する。仮に暗証番号を「1234」とした場合、入力位置は、図 1 のように網掛け表示された位置に変化する。

【符合の説明】

1 入力装置

【図 1】

